

〔前文〕
福音信仰に立つ私たちが、福音宣教の推進と諸教会の相互理解、協力を願う。この中で、これまで三回、日本福音同盟(JEA)の主催による日本伝道会議を開催してきました。一九七四年、京都の第一回伝道会議において、私たちは福音信仰を基礎とした相互理解と伝道協力の必要性を確認し、日本にその理念を実現する群として、自らの存在を明らかにしました。一九八二年、再び京都で開催された第二回伝道会議では、伝道は教会の主体的な業であるとの認識を深め、日本特有の伝道課題を取り上げ、その対応や方策を探りました。一九九一年、那須塩原における第三回伝道会議で、私たちは地方と世界を同時に視野に収め、日本・アジア・世界という広がりの中で伝道に取り組みようとする姿勢を自覚し、推進しようとしてきました。

第4回日本伝道会議・沖縄宣言

「21世紀の日本を担う教会の伝道-和解の福音を共に生きる-」

過去三回の会議を踏まえ、ここに私たちは、一層の連携と協力の美を結ぶことを祈りつつ、JEAの枠を超えて実行委員会を組織して、第四回日本伝道会議を開催しました。世紀をまたぐ特別な時を意識し、二十世紀と二十一世紀を展望しようとする試みが、この会議の貢献となり、収穫となり、と信じます。

今回の会議が沖縄で開催されたことに神の摂理を覚えます。私たちは沖縄に集うことにより、沖縄が日本全土との関わりにおいて特別な痛みを帯びていて、そのことを思い、キリスト者として、痛みを共有する聖書の・福音的あり方を模索しました。

福音を共に生きるために、この会議とそこに至る積み重ねの中で私たちに与えられた認識、悔い改め、願い、決意を以下のように要約し、宣言として公にいたします。

第一章 和解の福音を共に確かめる

1. 神との和解

人間は、万物の創造主である唯一の神によって造られ、「良い」とされたにもかかわらず、罪のために神との関係を破り、神に敵対するものとなってしまいました。罪人となった人間は、義なる神の前において、自らを責め、神との関係を回復することができない状態にあります。しかし、神は、その大いなる愛のゆえに、主イエス・キリストをこの世に遣わされ、十字架の上で、死からの復活によって、罪人を罪のなわめから解放し、神との正しい関係を回復する道を開かれました。これはキリストを信じる信仰によってのみ与えられる神との和解であり、霊感された神のこころである聖書に啓示されている主題であり、福音の核心です。

この「和解の福音」は、罪ある人間が救いを得るための唯一の道です。それは父・子・御霊なる三位一体の神の一方的な愛と恵みによるもので、他に類のないものです。私たちキリスト者は、神との正しい関係に入れられた者として、神の栄光のために世に遣わされ、世に向かって神との和解の福音を宣べ伝え、世にあつてこの福音に生きる者となります。

2. 人との和解

「人と人との和解」は、当事者が互いに譲りあつて争いをやめ、互いを愛するが、単に争いをやめるにとどまり、相互の関係は断たれてしまふのが現実です。神の愛によって罪を赦されたキリスト者は、御霊の助けにより、キリストの愛に導かれ、互いに愛し、互いに助け、互いに励み、最終的に栄光のキリストの来臨により、全地にキリストの支配が及ぶまで、互いに愛し、互いに励み、互いに助け、互いに励むことを待望します。

次週から「第四回日本伝道会議・沖縄宣言」の第二章、第三章を順次掲載します。

3. 万物の和解

人間は、万物の創造主である神によって地を治める神の代理人として創造され、神からの管理を委ねられています。しかし、神から離れた人間は、罪のために、神の意思に反し、神のために治めなければならぬ地をほごのままに用い、環境破壊、資源枯渇、地球温暖化などの問題を引き起こしました。二十世紀末の今や「地のゆめき」は、全地球的な規模で拡がり、万物は「神の子らの現れ」による救いを待ち望んでいます。

神との関係を回復されたキリスト者は、本来の神の代理人として、今こそ、地の解放のために、政治、経済、教育、科学、その他あらゆる分野において、真の貢献をしていく必要があります。

私たちはこの世において神の賜物を十分に發揮し、与えられた使命の遂行に励み、最終的に栄光のキリストの来臨により、全地にキリストの支配が及ぶまで、互いに愛し、互いに励み、互いに助け、互いに励むことを待望します。

の助けにより、キリストの愛に導かれ、互いに助け、互いに励み、互いに助け、互いに励むことを待望します。

ろんせつ

＜論説＞



論説委員 有賀 喜一

神の転換

「二十一世紀の日本を担う教会-和解の福音を共に生きる-」を主題に、第四回日本伝道会議が、大きな祝福の中に沖縄で開かれた。主の年二〇〇〇年、二十一世紀最後の年という世紀の節目に、「沖縄」という島の遺産を歴史に負った地で、その傷とゆめきを聞き、同時に、他府県の三倍のクリスチャン人口を持つ、キリストのからだとしてその美しさを一致と協力の美をあげて、真実に触れる時であった。

この日本の転換(シフト)は、「神の時を愛え」(ダニエル二・21)のディバイン・シフトである。人間の無力、神の全能から来る三位体的に存在する時代において、キリストにある神との道であるという信仰を私たちが堅持しなければなりません。また、分断と争いに満ちた現代社会において、環境破壊の危機にさらされている二十一世紀において、「神」と「人」との和解は、「人」と「万物」という多様な

隣人の新世紀へ

の神ご自身の宣教(ミシオ・テイ)の実現の季節なのである。

今回の伝道会議のテーマは、「和解と共生」である。日本福音同盟理事長、吉持章氏は、ルカー二〇・三二、「あなたも行って同じようにしなさい」(ルカー一〇・三七)と、新世紀が隣人の世紀になるようにとの挑戦を訴えた。沖縄の心を表現する言葉「いちゃ

21世紀の日本を担うために

「日本伝道会議のためにイエスが祈られる」として、ヨハネ一七章から「私たち(キリスト者)が一つにならねばならぬ」とを訴えた。この一致の大きさは御国の視点で見ると、広い教派、団体、教会の一致が図れる結ばれている。

聖書講解のウェイブライト氏は、「日本伝道会議のためにイエスが祈られる」として、ヨハネ一七章から「私たち(キリスト者)が一つにならねばならぬ」とを訴えた。この一致の大きさは御国の視点で見ると、広い教派、団体、教会の一致が図れる結ばれている。



第15回総会で決まった新理事会のメンバー。左から5人目が篤田公義・新理事長(6月30日)

「世界宣教青年会議」開催を決定

理事の任期限度を延長

長期計画遂行の体制へ

日本福音同盟(JEA)は六月三十日、那覇市内で第十五回総会を開き、青年クリスチャンが世界宣教のビジョンを分かち合うことを目的に「世界宣教青年会議」(仮称)を開催することを決めた。検討されてきた規約の改定では、理事長及び理事任期の限度を延長し、より長期的なビジョンに立った施策を執行しやすい体制に移行。また、これまで理事の互選で決めていた理事長人事を全会員代表の投票による直接選挙に変更した。吉持章氏(日本同盟基督教団)は二期二年の任期を終えて今総会理事長を退任し、新方式による初の直選で新理事長に篤田公義氏(イムヌエル綜合伝道団)が選出された。

初直選新理事長に篤田公義氏

「世界宣教青年会議」は、JEA世界宣教委員会(三ツ橋信昌委員長)が九八年の第二回世界宣教日本会議、九九年の世界宣教コンサレーションでの懇談などを経て、多くの青年クリスチャンが一堂に会し、世界宣教のビジョンを共に分かち合い、主に自らをささげる時と場を持つことが必要だとして立案。これをJEA全体の取り組みとして受け止め、理事会が提案し可決された。

原案では二〇〇二年十二月末ごろに三泊三日、東京

マルクに数千人の聖戦部隊

「虐殺の危機」に伝道会議で守りと和解祈る

インドネシア

シハド(聖戦)を叫ぶイスラム兵約六千人から、世界福音同盟宣教の自由委員と七千人がインドネシアのマルク州(モルッカ諸島)を襲い、キリスト教徒を狙った虐殺が進んでいる。マルクの人々を助けてほしいという福音同盟の稲垣博史総主事のもとに届いた。

昨年一月から続いている

ら証言で分かっている。今年五月に聖戦部隊がマルク地方に押し寄せたから、二週間約三百人が殺されたと伝えられる。ワヒド大統領は六月二十七日、マルク・北マルク州に非常事態宣言を発令した。

伝道会議の副議長「和解の福音を共に生きる」の稲垣総主事は、伝道会議二日夜の「宣教・共生の夕べ」で、会場の二千人の会衆に、シハドの標的となっているクリスチャンが守られるように、マルクの平和と和解のために祈りを要請。会衆は「アメン」と、声に出して緊急の祈りをした。

一方、日本キリスト教協議会(NCC)は七月五日、超党派の「マルクに和解を願う会」や市民団体と共にインドネシア大使館を通じて同国政府関係機関に対し、一刻も早く法の下の厳正な措置をとり、負傷者や避難民に適切な対応をするよう、緊急の要請をした。

エルサレムで2000年運動とローザンヌ世界宣

年十二月二十七日から年0年運動とローザンヌ世界宣で開催する「聖誕二〇〇〇年メサイヤ2000」への参加された。聖地旅行を含む参加は9日間、関西空港発14日04:30-27:9:45、店、関空発11:07:8-27:9:45